

聖誕主日
説教

東方博士の信仰

＜マタイによる福音書2:1～12＞

全 炳 玉 牧師（名古屋南教会）



今年もいつものように、イエスの誕生を迎えるクリスマスが来る。すでにモール街では、クリスマスを知らせるクリスマスツリーとキャロルが登場した。教会よりも早い。クリスマスが近づいたことをショッピングセンターを通して知るといふ現実には、残念な思いもある。

若い頃、クリスマスを準備するために教会で長い時間を過ごした思い出があるが、クリスマスを準備する信仰的な意味は、イエスの誕生によって達成される、すべての人類に対しての神の救い、すなわち福音に対して深い感謝の気持ちを持ってイエスの誕生を伝え、一緒に喜び祝うことである。2000年前にイエスの誕生を、準備して迎えた東方博士たちの足跡をふり振り返り、クリスマスの意味を深く考えてみて欲しい。

東方の博士たちは真理に対して興味を持っている求道者だった

ペルシャの、星を研究する天文学者たちであった東方博士たちは、新しく発見された特別な星がメシアの誕生を知らせる星であることを、ディアスポラのユダヤ人たちを通して知った。なぜユダヤ人の言葉を信じて、あの長い道のりを来ることが出来たのだろうか？ 実に奇跡的なことである。しかしよく考えてみると信仰とは真に神秘的なものである。多くの人々が福音を耳にはするが、信じる人はあまり多くない。特に日本では懐疑的なことだ。しかし救いの真理に興味を持っている人にとっての福音は、いつでも具現される事実である。今日においてもこの救いの望みをもって福音を伝え、知らせることである。

東方博士たちはイエスに宝箱をささげた

東方博士たちはメシアの誕生を祝い、礼拝するために非

常に遠くから来た。たくさんの困難の末にイエスに会い、彼らは喜んだ。そして準備した宝箱をささげた。それは当時最高の価値を持つ貴重なものであった。そこには東方博士たちのイエス・キリストへの真実の信仰が含まれていた。単純な物の価値を超える、信仰の告白が含まれている。すなわちイエスが救い主であることを認める信仰告白である。こうして信仰告白は重要な価値があることを教訓としている。福音は比較することのできない絶対的な価値である。この福音に対する私たちの態度はどうか。安物のような扱いになってはいないだろうか。クリスマスを迎え、私たち自身に質問しながらイエス・キリストの大切さをもう一度考えてみよう。

東方博士たちは神の御声に従った

イエスを礼拝した東方博士たちは、故国に帰る時、恐ろしい力を持つヘロデ王の言うことを聞かずに神の言葉に従って、別の道を選択した。どんな困難が襲ってくるかわからない危険な決断であった。悪質な権力者の言葉より、イエス・キリストを守るために東方博士たちは命をかけて挑戦したのである。福音を守ることは決して簡単ではない。時には東方博士たちのように、命をかけた挑戦をする場面もあるだろう。

今日私たちが住んでいる日本においては、このような困難はないとしても、日本で福音を守ることは、時として孤独な道となる。しかし福音を守ってきた東方博士たちのような信仰を忘れずに、今日私たちに許された福音の現場を守っていこう。

韓日対照聖書販売



各ページ左に韓国語(改革改版)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。

- A5版変型・1772ページ
- 価格: 3,000円(消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格: 2,500円(消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

宣教110周年記念 講壇掛・ストール販売

在日大韓基督教会110周年準備委員会は、大会を記念してKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円(約半額) 講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。



日本キリスト教会との 宣教協力委員会開催

昨年2017年11月23日に持たれた在日大韓基督教会（KCCJ）と日本キリスト教会（CCJ）との宣教協約締結20周年記念集會を経て、今年11月13日に「第17回在日大韓基督教会と日本キリスト教会との宣教協力委員会」が日本キリスト教会柏木教会にて開かれた。

KCCJからは総会長の金鐘賢牧師、副総会長の金健牧師、總會書記の趙永哲牧師、宣教委員長の鄭然元牧師、信徒委員長の金迅野牧師、関東地方会長の張慶泰牧師、総幹事の金柄鎬牧師外、デイビッド・マッキントッシュ宣教師、CCJからは、この10月に新たに選出された大会議長の久野真一郎牧師、大會書記の傳英二牧師、渉外委員長の富永憲司牧師、渉外委員から佐藤泰將牧師、大石周平牧師、藤守義光長老らが出席した。

今回の委員会は二部の構成で、第一部を公開講演会、第二部において従来の委員会をもった。まず第一部の公開講演会は午後1時より29名の参加者がある中、来年2・8独立宣言、3・1独立運動100周年の節目の年を迎えるにあたり、講師の徐正敏教授（明治学院大学）が「1919年2・8朝鮮留学生独立宣言、3・1独立運動、日韓キリスト」と題して講演をし、それぞれの運動の時代的背景、その精神と意義、そして当時の

朝鮮と日本のキリスト者が果たした役割などを熱く語られた後、会場から活発な質問や意見が述べられた。両教団はこのような学びを踏まえて、2019年2月25日から28日にかけて「3・1独立運動ゆかりの地を巡る韓国ツアー」計画している。



講師の徐正敏教授

第二部の宣教協力委員会には、総会長の金鐘賢牧師の開会礼拝説教後、前回の協力委員会と実務委員会の會議録を確認し、各々の教団の近況報告をなした後、協議に移った。協議においては、両教団に共通の課題として、少子高齢化による信徒の減少どう対応していくのか、信徒（長老）、説教者の育成、牧師の再教育制度、両教団の教役者の人事交流などについて意見がかわされた。またアジアの教会との関連で、来年は在日大韓基督教会がWCRC（世界改革教会協議会）の東北アジア部会の議長教会となることが指摘された。

日本キリスト教会大会議長久野真一郎牧師の祈祷で協議を終え、場所を四谷にある妻家房に移し、参加者一同で夕食をとりながら交わりの時を持った。

（報告：金健牧師）



大阪教会

金勇聖名誉長老が召天

総会やYMCAなどで永らく奉仕



去る11月3日、大阪教会の金勇聖名誉長老が持病により天に召され、教会にて葬儀が行われた。享年75歳。

故金勇聖長老は大阪教会の故金官玉長老の長男として、1943年日本で生まれた在日2世であり、2代目の大阪教会の長老として仕えた。

1988年長老に将立されてから2013年名誉長老に推戴されるまで25年間大阪教会を支え、総会の歴史編纂委員長と在日本韓国YMCA理事長、関西YMCA代表理事を歴任するとともに、愛信保育園の園長を務めた後退職して後輩たちのために労苦を惜しまなかった。金智日牧師は故人の長男である。

中部地方会

宗教改革主日記念礼拝挙行 名古屋教会で讃美大会



長野教会讃美チーム

去る10月28日、中部地方会では宗教改革501周年を迎え、中部地方会所属の教会が名古屋教会に集い聖書暗唱及び讃美大会を実施した。

1部は前名古屋教会副牧師であった盧政一牧師が講師として迎えられ、エゼキエル3：1～3のみ言葉を中心に「ルターの宗教改革物語」と言う題目でメッセージを行なった。

2部は聖書暗唱と讃美大会を行った。7教会が参加した中、名古屋教会が愛賞を、豊橋教会が信仰賞を、大垣教会が希望賞を受賞した。

毎年10月最後の週に開かれる宗教改革記念連合礼拝と聖書暗唱・讃美大会は、中部地方会12教会が宗教改革の意味と地方会の一致のために実施されている。今年も恵みの中で執り行うことができた。

熊本教会

安秉珪隠退長老が召天

戦後すぐに開設した教会を永らく奉仕



去る8月2日、熊本教会の安秉珪名誉長老が持病により天に召された。享年92歳。

故安秉珪名誉長老は1926年慶尚北道慶山郡で生まれ、1951年に熊本教会が設立されると翌年の1952年に受洗し、教会発展に参与してきた。1973年には熊本教会で長老将立を受けた。

1996年に隠退するまで、永らく熊本教会を支え、奉仕してきた。

<年末年始業務案内>

総会事務局は年末年始下記の期間業務を休業いたします。
2018年12月25日～2019年1月4日

大阪教会

女性会が特別集会開催

主題：神様の御心に歩む女性会

2018年10月14日、大阪教会女性会は「互いに愛し合い、神様の御心に歩む女性会」を主題とし、シンガーソングライター陣内大蔵牧師を招いて特別集会を開催した。

- ・第1部礼拝～神様のプロデュース～（エレミヤ書29章11節）
- ・第2部礼拝～私が愛したように～（ヨハネによる福音書13章34節）
- ・第3部礼拝～あなたと私の間には～（ルカによる福音書17章21節）を題で御言葉のお話と証を交えてAmazing grace、鳩のように、風をみたくて、ゴッドブレスユーなど多数の曲を歌われた。

大阪教会女性会は2年に一度10月第2主日に伝道を目的とし

て特別集会を開催している。

今年の特別集会は基督教を知らない人も教会に入り、一緒に楽しむことができるように計画を立てた。当日礼拝堂には初めて教会を訪れる方もおり、家族連れの信徒も多かった。参加者皆は陣内大蔵牧師の説教、証し、歌を聞きながら一つになって笑って、歌って、感動あふれる恵みの集会であった。

(報告：大阪教会女性会)



苦難の歴史の中にあつて主が共にいる教会

李相徳 牧師

三次（みよし）教会のある広島県三次市は、山と川の美しい町である。ちょうど今頃現れる朝の霧は三次の自慢の種だ。これから開かれる冬の雪景色は圧倒的な神秘そのものである。川岸の鶴の姿、空中の鳶の動きも、美しい三次の一部である。

しかしこの美しい町も日帝末期の戦争の影響は避けられなかった。半島から強制連行されて来た数千人の朝鮮人が三次から近い高暮（こうぶ）ダムの建設現場に投入された。過酷な作業現場で数多くの朝鮮人が怪我をし、亡くなった。作業のミスで人がコンクリートの中で生き埋めにされて死ぬこともあった。脱出して捕まってしまうとほぼ半殺しだった。一方、広島原爆投下の後、たくさんの被爆者が列車に乗って三次の方へ殺到してきた時は、三次全体がパニック状態だった。

この三次に朝鮮人教会が始まったのは、太平洋戦争が終わって3年経った後である。第一代目の牧師任が赴任して共に礼拝をした1948年10月28日が三次教会の公式的な創立日であるが、その以前、すでに1947年のある時から数人が集まって韓国語で礼拝していた。当時の彼らの涙と祈りの精神は創立70周年を迎えた今の三次教会に受け継がれている。

今まで三次教会に赴任してきた牧師任や伝道師任の牧会期間は大体3～4年間だった。例外的に10年間この教会を守られた牧師も一人いらっしゃった。しかし担任の牧会者がいなくて、広島教会や岡山教会の牧師任が三次教会の臨時堂会長になられざるをえなかった時期も、たびたびあった。しかし三次教会の信徒たちは、1948年10月25日の創立以前にも主に

切なる礼拝をささげた初期の信徒たちのように、それらの無牧の時代を涙と祈りをもって克服しただろう。

三次教会の礼拝出席者がいちばん多かったのは1995年の18名で、教会学校が33名だった時(1955年)もある。2018年秋の今、三次教会はみんなが出席すると（子供まで）14名で、教会学校は4名である。ほとんどの信徒が日帝時代に半島から渡ってきた朝鮮人の子孫であり、礼拝の言葉は日本語である。

このたよりを書いている者がこの教会に赴任したのは昨年5月末、委任式は昨年11月11日だった。書き手がこの教会に来て高々1年半だが、すでにこの教会には、牧師のいなかった6年間、涙と祈りの精神をもって礼拝の場を守ってきた信仰の勇士たちがいらっしゃった。この方々と共に祈って共に話し合いながら、主の御心を求めたい。インマヌエルの主が三次教会の一人一人と共におられる！



2019年 全国教役者研修会 案内

- ・日 時：2019年6月10日(月)～13日(木) 3泊4日
- ・場 所：カナダ トロント
- ・主 題：「マケドニアの幻に従って」(行16：9) - KCCJカナダ宣教師の故郷を訪ねて -
- ・参加人数：50名先着順
- ・参加費：20,000円（トロント現地費用、航空券は個人で）
- ・主なプログラム
 - <10日、月曜日> 開会礼拝及び歓迎会 19：00（トロント到着18：00まで現地ホテル集合）
 - <11日、火曜日> カナダ長老教会(PCC)、カナダ合同教会(UCC)、Henri J. M. Nouwen L' Arche Daybreak, トロント大学など訪問
主題講演及び元老宣教師たちとの出会い(晩餐会を兼ねて) 講演：Glen Davis 宣教師
 - <12日、水曜日> 在日同胞カナダ宣教師資料館、ナイアガラ滝訪問、閉会礼拝および水曜礼拝
 - <13日、木曜日> 朝食後解散
- ※参加申請：2019年1月31日まで総会事務局（メール、FAX）

●特集● 2・8 独立宣言

<涙の獄中クリスマス> (1)

川崎教会 李省展 長老



1919年2月8日、東京は雪が深々と降る寒い日であった。外気の寒さとは対照的に、在日本東京朝鮮基督教青年会ホールは朝鮮人留学生達の熱気で満ち溢れていた。式典はキリスト教式で持たれ尹昌錫の祈祷が終わると、満を持して白寛洙が高らかに独立宣言書と決議文を朗読した。たちまちホールは学生たちの万歳の叫び声で割れんばかりの様相を呈したが、即座に監視にきていた警察による検束が始まり、場内は怒号と椅子が飛び交い乱闘があちこちで生じた。20余名の学生が拘束され、雪の降る凍てつく夜道を靴も履かせてもらえずに裸足で西神田署へと連行されていった。数日後、上海にいた李光洙、崔謹愚を除く署名者11名の内9名が市ヶ谷監獄へ移送され、残りの学生たちは釈放された。これが帝国日本の権力の中核であった東京での独立運動の始まりであった。

日本の研究では、2・8独立宣言を3・1独立運動への「導火線」と位置付けている。事実、東京の長老派女学校であった女子学院の留学生金馬利亜は2月中旬に着物の帯に独立宣言書を密かに隠しもち朝鮮へ渡り、各地で独立を鼓吹し3・1独立運動に参加した。しかしながらこれらの東京の留学生たちもまたアメリカでの独立運動の英文記事に触発され、独立宣言書の作成を計画したことから、1918年1月8日の民族自決を最重要視したウイルソン米大統領の14か条宣言などの世界史の流れの中で位置づけられなければならない。勿論過酷な植民地からの独立への希求があったことはいうまでもない。

当時の東京の朝鮮人留学生はキリスト教とは切っても切れない密接な関係にあった。その中でも、東京の明治学院（長老教）と青山学院（監理教）は数多くの朝鮮人留学生受け入れており、受け入れに関しては両校が群を抜いており、その背後には日韓のミッション・ネットワークが存在していたことは明らかである。

当時の日本への留学生は、独立を合言葉にして日本へと渡ってきたという。彼らの伝記を読むと苦学しながらも必死に学問と取り組む姿が浮かび上がってくる。このような留学

生の日本という土壌で育まれた知性が、見事に花開いたのが2・8独立宣言書であったといえよう。

3・1独立運動は宗教人が作成に携わったことから格調も高く、非暴力を前面に押し出した宣言文であり、道義的な性格が強くにじむ宣言書である。日本への反省は促してはいるものの排他的な精神に逸走してはならないとし、直接的な日本への批判を回避しているところにその特徴がみられる。また3・1独立運動は世界情勢に関する分析は十分には見られない。他方2・8独立宣言では世界情勢と日本の動向分析、植民地政策の問題に関する言及が詳細になされている。さらに条件付きではあるが日本との血戦を宣言している。この若い知性に溢れた宣言文は李光洙が起草したものとされているが、世界情勢分析は白寛洙のものであるともいわれており一定の合議のもとに出された宣言といっていいただろう。エドワード・サイードがその著書『文化と帝国主義』の中で「帝国主義の果実で帝国主義を批判する」と述べているが、帝国の首都東京でなされたこの宣言はまさにサイードが指摘するような批判的営為であったといえよう。

松尾尊兌は大正デモクラシーを「内に立憲主義、外に帝国主義」と評しているが、実面的を得た認識であるといえよう。吉野作造、安倍磯雄、内村鑑三などが講演会・聖書研究に呼ばれたことから見ても、大正デモクラシーと当時の留学生は実に密接な関係にあった。面会や差し入れを欠かさなかったのはYMCAの幹事・白南薫であり、彼は拘束された9名の学生の弁護士選任に奔走した。布施達治、花井卓三、鶴澤聡明、今井嘉幸など人権派弁護士の顔を持ち、法曹界の重鎮であった大正デモクラシー勢力が学生たちの弁護に当たり、反乱罪、騒擾罪よりも軽い、出版法違反の禁固2年の判決となったのである。

白南薫は獄中の学生たちを頻繁に訪問するとともに、12月になると野口典獄を訪問し、9人は皆キリスト教信者なので、彼らとともに一か所で祈祷をしたいのだがと許可を求めたところ、日本語使用を条件に許された。25日当日、教誨室で祈祷がなされると、そこにいた全員が涙にくれながら、クリスマスを祝ったとされる。翌年の3月9日に全員が出獄し、青年会館に帰ると学生たちが待ち受けており、涙を流しながら再会を喜び合ったと記録されている。（次号につづく）

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 吳永錫（東京希望キリスト教会 長老）

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

女性のための電話相談

DVや子どもの問題など
ひとりで苦しんでいませんか
話すことは解決への第一歩...



☎ 06-6731-1616

〈電話受付〉第1・3・5週土曜日 正午12時～午後4時

日本語 第1・3・5土曜日 韓国語 第1・3土曜日